

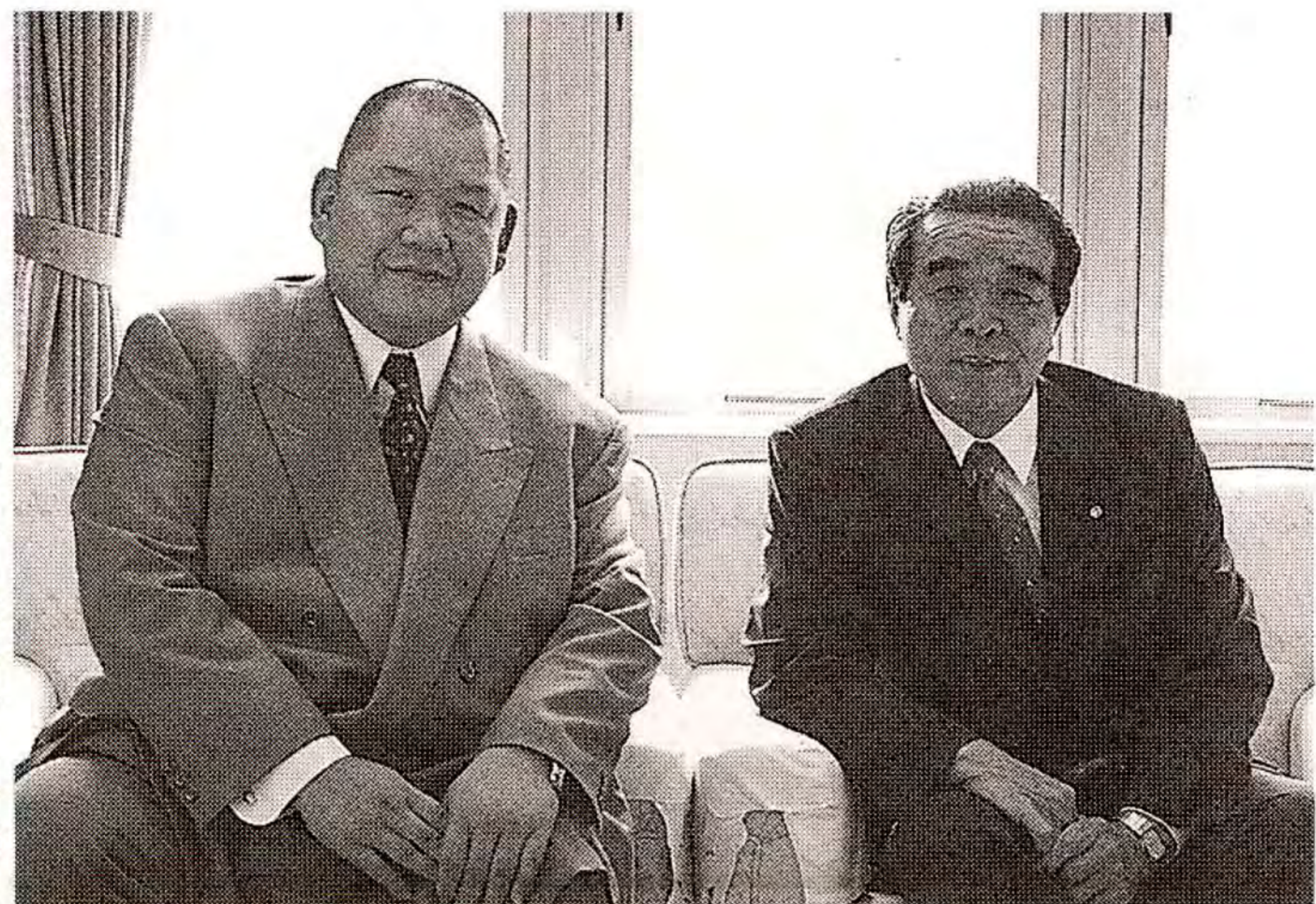
梅窓院通信『青山』
 発行/梅窓院 編集/青山文化村
 発行日/平成12年9月1日
 発行人/中島 真成
 住所/〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38
 電話/03-3404-8447
 FAX/03-3404-8107
 http://www.baisouin.or.jp/
 E-mail/jodo@baisouin.or.jp

青山

AOYAMA

秋彼岸号
 No.2
 2000/09/01

題字/浄土門主知恩院八十六世心誉



郡上おどり

梅窓院第二十五世
 中島真成



今年の七・八月は特別な暑さでしたが、皆さんお変わりなくお過ごしでしょうか。『青山』第二号をお届けいたします。

ひと月ほど前、この『青山』を作っている青山文化村のスタッフを中心に郡上八幡に行ってきた。そして、日本三大民踊に数えられる郡上おどりをみんなで踊ってきました。

江戸時代の終わり、郡上八幡の藩主は青山家でしたので、この梅窓院とも関係が深いこともあり、近隣商店街の皆さんが発案で、毎年九月、境内で郡上おどりが踊られるようになりしました。皆さんの中にも楽しみにしている方もいらっしゃるでしょう。

実際、夏の郡上八幡を訪れてみると、おどり一色。町のいたるところに大きな提燈がぶら下がり、迫力満点です。事前に連絡をさせていただいたこともあり、町長さんに出迎えていただきました。その時の記念写真が表紙の写真

です。

郡上八幡は名所旧跡も多く、自然豊かな山村で都会に住む者にとってはまるで別天地。魅力あふれる町です。

特に夏の郡上八幡は全国から観光客が集まり、郡上おどりに酔いしれますが、そのおどりのルーツの一つが念仏おどりだそう。

今は念仏を称えながら踊るといふことはありませんが、実際に踊ってみると、念仏を称えている時と同じような気分になるのは、こうした成り立ちがあるからでしょうか。

今年もここ青山で本場の郡上おどりが踊れます。暑さや普段の事を忘れて、ぜひ皆さんで踊ってみてください。

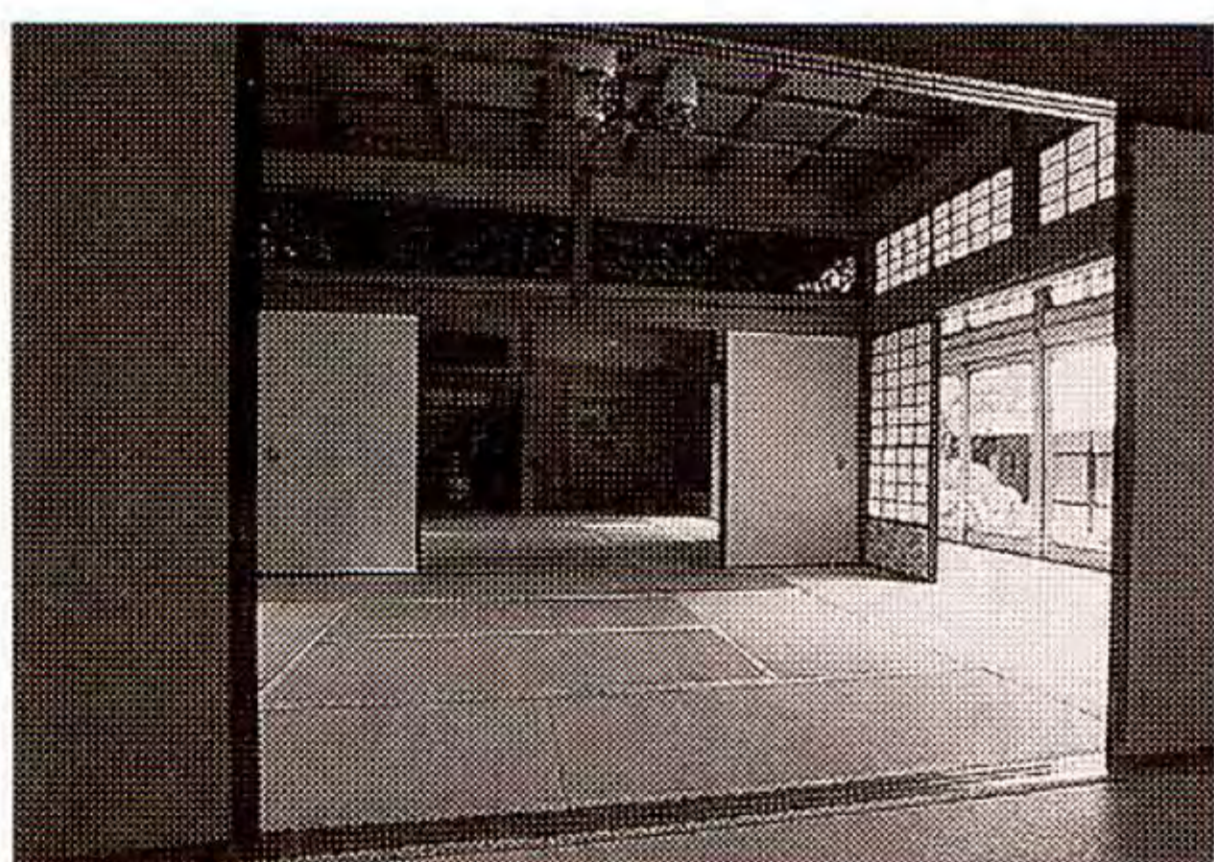
合掌

境内散策

客殿

本堂隣の客殿は、左右を庭に囲まれた落ち着いた佇まいです。法事後で食事していただくことも多く、念仏と法話の会では暗くして道場としても使います。

食事は仏教ではお斎(とき)といつて、正午前に食べる食事をいきました。



行事紹介

郡上おどり in 青山

九月十五日(金)・十六日(土)
 午後五時～午後八時半
 ※十三日(準備日)から十六日の間、車での来寺は、ご遠慮下さい。

※お檀家様には梅窓院受付にて、手ぬぐいを無料配付致します。

※雨天の場合
 青山小学校 体育館

秋彼岸会大法要/彼岸寄席

九月二十三日(土)
 法要・午後一時～ 祖師堂
 寄席・午後二時半～ 観音堂
 落語 春雨や雷蔵師匠
 入場無料 (詳細は三面へ)

ファン・デン・フック ピアノ・リサイタル

十一月十日(金) 祖師堂
 開場・午後五時半
 開演・午後六時

(詳細は四面へ)
 ※お問い合わせ 青山文化村

念仏と法話の会

十月三日(火) 午後一時～

仏教講座 別紙参照

※お問い合わせ
 仏教研究所

〇三(三四〇四) 八四四七

梅窓院通信

平成12年度団参 追加募集
 法然上人二十五霊場巡拝
 10月10日(火)～12日(木) 淡路洲本・神戸方面
 定員に若干の余裕がありますので、ご希望の方はお早めにお申し込み下さい。
 <お問い合わせ>
 檀信徒部

Tel 03-3404-8447



訪問予定の法然寺仁王門



かつての本堂外観

青山梅窓院史

《お寺の名前の由来は》



長青山寶樹寺梅窓院。これが皆さんのお寺、梅窓院の正式名称、もう覚えませんか。

現在、放送中のNHK大河ドラマで、徳川家康の家臣として青山忠成公が活躍しています。この梅窓院は、忠成公の四男、幸成公が亡くなり建立されたお寺です。時に寛永二十年、一六四三年のことです。

幸成公の 戒名をもらおう

お寺の名前の院号は、幸成公の戒名からとられたものでした。山号の長青山も、幸成公の側室の戒名からとっています。

「あれれ、どうして亡くなった人の戒名ばかりからとるのだろう」と疑問に思った方もいるでしょう。

一体なぜでしょうね。皆さんは、どんな理由を考えられますか。

理由はいくつも考えられますが、やはりその人を葬り、その菩提を弔う為に建てたお寺ですから、その人をいつまでも忘れないように、ということでお寺にその戒名をつけようです。

極楽を意味する

「寶樹」

さてさて、では真ん中の寺号、寶樹寺は一体何からとったのでしょうか。

寶は宝の旧字です。ですから「宝の樹の寺」ということですが、実はこれは極楽を意味しています。

浄土宗が大切にしている三冊のお経がありますが、その一冊「阿弥陀經」には極楽の様子が書かれています。一体どんなところでしょう。

金銀瑠璃などの七つの宝でできた池、五色に輝く蓮華の花、大地は黄金ででき、いつ

も心地よい音楽と気持ちいい風が流れている世界です。そして宝の樹もこの世界のものです。

ですから宝の樹は極楽のことなのです。

ここでひとつエピソードを紹介しましょう。

梅窓院を建立したのは幸成公の側室、利白夫人で、最初は単に「梅窓院」という寺名でした。それが二十六年後、利白夫人が亡くなり、今の山号寺号のついた寺名になったのです。

実は、利白夫人は「寶樹」を生前戒名にしたかったのですが、当時身近な方に「寶壽」という名前の方がいて、まぎれないために「長青」にしたということなのです。

想いの込めた お寺の名

こうしてみますと、戒名と戒名の中に利白夫人の想いの込めた寶樹をはさんだのが、お寺の名前の由来なのです。

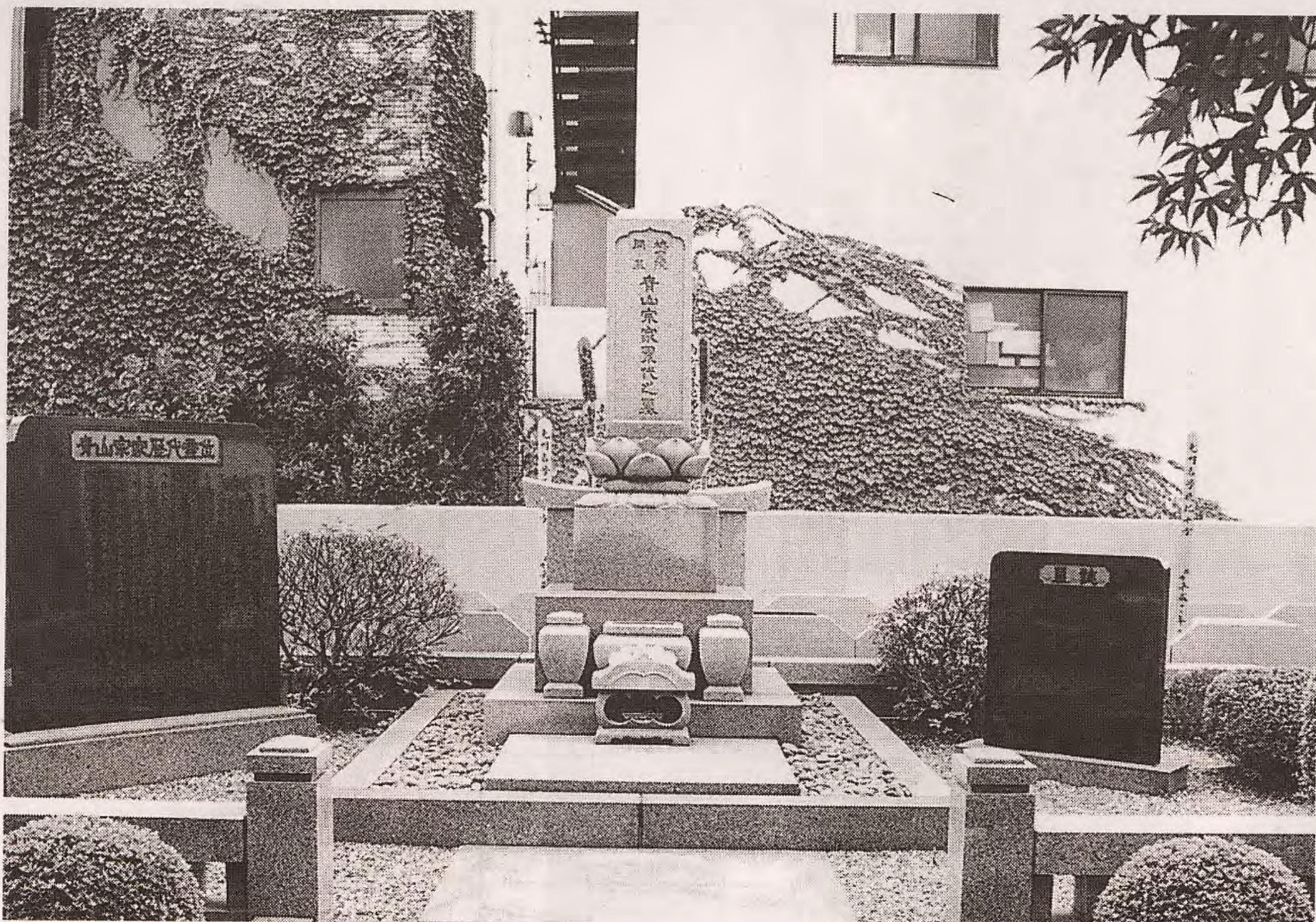
そしてこれは極楽の宝の樹の下にこの世で仲の良かった二人が並んでいる、ということとを意味したのかもしれないね。

長青山寶樹寺梅窓院、このお寺の名前はいまから三百年以上前につけられましたものですが、こうしてその命名の

理由を探っていくと、その時の青山家の様子やこのお寺を建立した人々の想いがいまに伝わってくるようですね。

名は体を表わすといいますが、まさに梅窓院は青山家の菩提を弔うのにふさわしい寺名です。

(真山剛・ルポライター)



梅窓院墓所にある青山家の墓

梅窓院の昔の話をご存知の方、伝え聞いていらっしゃる方、往時の資料をお持ちの方がいらっしゃいましたら、どんな小さなことでも結構ですから、ご一報いただければ幸いです。

秋のお彼岸

お彼岸

九月二十日(水)～二十六日(火)

彼岸会大法要

九月二十三日(土)

開始午後一時 会場 祖師堂



平成十一年秋彼岸の様相

彼岸とは

彼岸の語源は「到彼岸」に訳されるインドの言葉であり、悟りの岸にいたるという意味を持ちます。「彼岸」に対し、私達の住む、煩惱多き現世を「此岸」といいます。

彼岸会の始まり

秋分の日を中心とした前後一週間、先祖供養やお墓参りをする日本独自の仏教行事として、平安時代以降、盛んに行われるようになりました。

彼岸の中日には、太陽が真西に沈みます。この為、西方浄土に住むという阿彌陀仏を、礼拝する時期として相応しいという事から、営まれるようになったという説もあります。

彼岸会には、先祖供養すると共に、自分自身が煩惱多き此岸から、悟りの岸、彼岸に想いを寄せる機会としても、捉えて頂きたいと思えます。(石上)

彼岸塔婆お申し込み方法

同封のハガキで九月十日必着で、お申し込み下さい。塔婆回向料は、一本七千円とさせていただきます。

お支払方法

同封の払込用紙で郵便振込又は、当院受付にて直接払い込みのどちらかを、ご都合にあわせてお選び下さい。

※この払込用紙は郵便局専用です。銀行では使用出来ませんのでご注意ください。(経理)

① 口座番号 (記入済です)

② 金額 (記入して下さい)

③ ※記入例
彼岸塔婆代 ○本

④ 加入者名 (記入して下さい)

- ① 口座番号 (記入済です)
- ② 金額 (記入して下さい)
- ③ 通信欄 (塔婆代など項目と、本数を記入して下さい)
- ④ 依頼人欄 (ご自分の住所氏名、電話番号を記入して下さい)

秋彼岸寄席 | 入場無料 |

九月二十三日(土) 観音堂

開演 午後二時半

落語 春雨や雷蔵師匠

※自由にご覧頂けます。ぜひ、お立ち寄り下さい。

四代目 春雨や雷蔵師匠
(プロフィール)

S 11 西亀有生まれ

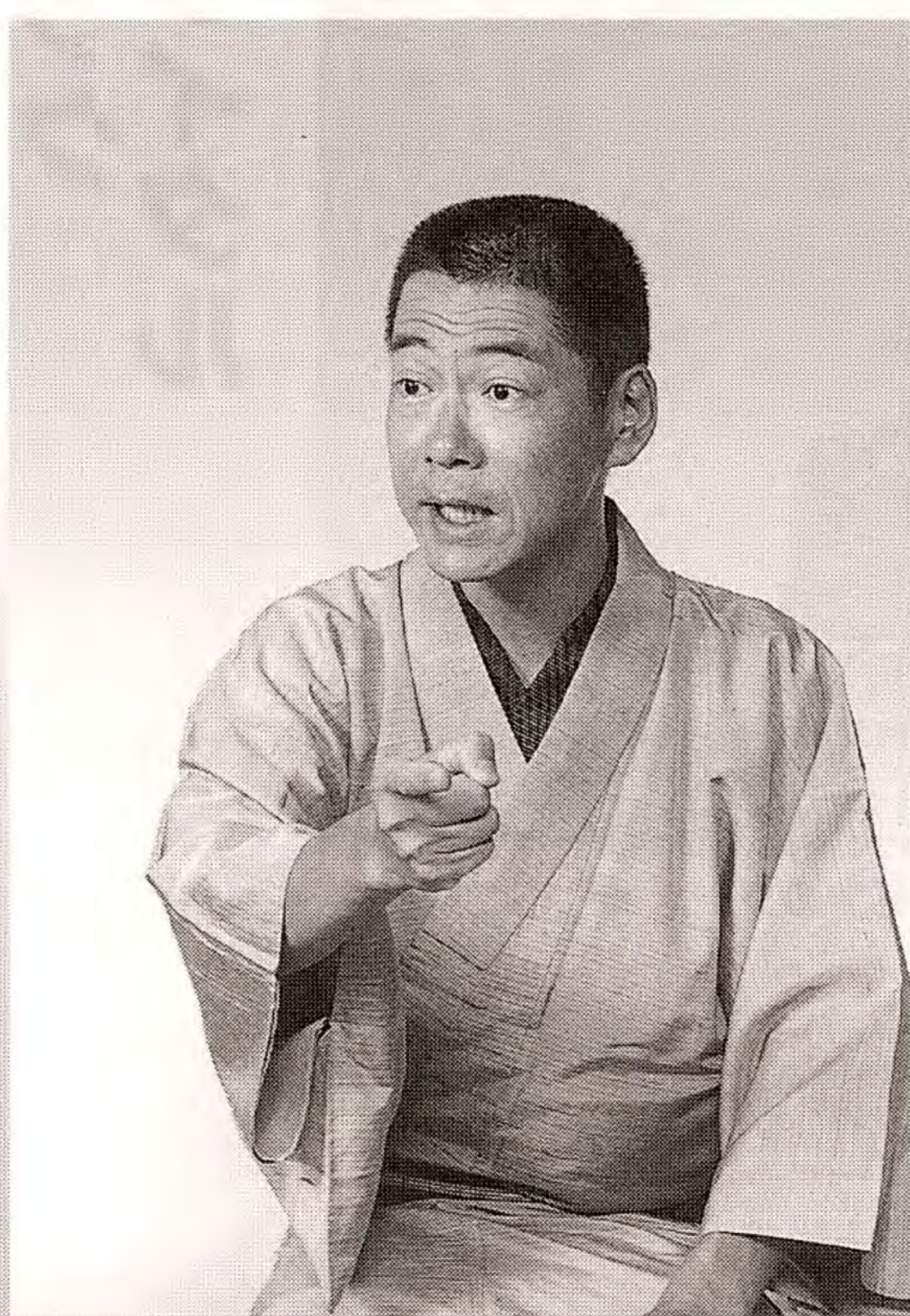
S 57 真打ち昇進・雷蔵襲名

H 11 文化庁芸術祭優秀賞

受賞

古典落語のみならず、古今亭今輔師匠のお婆さん落語にも取り組み、実力派の中堅落語家として高い評価を受ける。

毎月、落語会「雷蔵八百夜」を催す他、「心の豊かさを求めて」「ハッスルお婆さんを目指して」と題し、村おこし・環境問題・高齢化問題・農業などの今日的なテーマで、全国的に講演活動を行っている。



四代目 春雨や雷蔵 師匠

◆お檀家様へのお願い◆

9月20日から26日までの彼岸期間中は、お参りの方が大勢いらっしゃいますので、電車等をご利用下さい。また、駐車場が満車の場合はご容赦下さい。

青山俳壇

選者・「俳句朝日」顧問 大崎紀夫

●テーマ

夏

夏をテーマとした俳句に、多数のご応募をいただきました。ありがとうございます。記念すべき第一回目の入賞作品は、下記のとおりです。

◎特選
尼寺の閉ざせし門や夏椿
門を閉ざしてひっそりとした尼寺に清楚な夏椿が咲いている。という景を詠んだすがすがしくまとめた一句。

◎佳作
ぎこちなく妻に手を貸し宵涼み
父植えて夫が手入れの夏椿
じいちゃんの背中にお灸天道虫
ひとときは入道雲となりし雲
蝉しぐれ読経に混じる慰霊の日
魚はねて波紋ひろがる朝曇
僧に問ふ盆飾りなぜ馬や牛
跳ね回りつつゆく郡上おどりかな

◎選者詠
田の道をきてひとときの木下閣 大崎紀夫

『青山俳壇』投句募集

『青山』では皆様からの俳句を募集しております。選者は

『俳句朝日』の顧問、大崎紀夫氏です。次回のテーマは当季雑詠とします。十月二十日を締切とし、十二月末発送予定の新年号にて発表させて頂きます。応募は、ハガキ一枚に一句とし、住所、電話番号、氏名、年齢を忘れずにお書き下さい。お待ちしております。

※ 港区南青山二二二六二三八 梅窓院

「青山俳壇」投句募集係

◆ワンポイントアドバイス◆

- ・季語を忘れずに。
- ・俳句は口に出して読み、リズムカルに作ってください。

ファン・デン・フック ピアノリサイタル

「お寺を文化交流の場に」との願いから始めたピアノリサイタル。本年度で八年目を迎え、恒例行事として定着して参りました。演奏は今年も、親交のある日蘭芸術友の会を通じて、ファン・デン・フック氏をお迎えします。皆様お誘い合わせの上、ぜひお越しください。

十一月十日(金) 祖師堂にて

開場 午後五時半

開演 午後六時

入場 前売 三〇〇〇円

当日 四〇〇〇円

チケットぴあにて発売中

〇三―五二三七―九九九九

※読者の皆様には、特別価格と致しまして、一〇〇〇円でご入場頂けます。

左下の応募券をハガキに貼り、氏名、住所、電話番号、来場者人数をお書きの上、お申し込み下さい。入場券と振込用紙を返送致します。

応募の締切は十月二十日必着とさせていただきます。

港区南青山二二二六二三八 梅窓院 青山文化村

リサイクル申込係まで

プロフィール

1954年オランダ生まれ。1986年、国際リストコンクールで第一位を獲得する等、数々の賞を受賞。ヨーロッパ音楽界で脚光を浴びる。現在、ウィーン市立音楽院教授。

国際舞台での活躍は目覚しく、その演奏力は「完全なテクニックと力強さ」として高い評価を受ける。日本での演奏活動は今年で13年目。主要都市でリサイタルを行い、ファン層を広げている。



力強い演奏が魅力のファン・デン・フック氏

ピアノリサイタル
応募券
H12.11.10

蟹漁師の家

青山散歩道

蟹漁師の家

「梅窓院の向かいに、安くおいしいカニ料理屋がある。」という噂を聞き、訪ねてみたのがこの『蟹漁師の家』。

昼時はビジネスマンで店内は一杯。その中で圧倒的な人気を誇っているのが「カニ・カニ・チャーハン」だ。カニが殻ごと乗っていて、ボリュームもインパクトも共に満点。食べる側にも気合が入ってしまふ一品だ。カニチャーハンに味噌汁・サラダが付いて、九〇〇円は驚きのお値段。

実はこのお店、カニ輸入業者の直営店。カナダ産ズワイガニを特殊技術で冷凍し、日本へ空輸している。その為、

格安で鮮度が高く、甘いカニが味わうことができる。

また店には、和・洋・仏・伊のシェフがおり、約一三六種類の季節に応じたこだわりメニューが揃っていて、一度に何種類ものカニ料理が楽しめるのも、魅力の一つだ。

平日午後一時からは一六〇〇〜二〇〇〇円のランチコースがありますので、お墓参りの際にでも、カニづくしランチをお楽しみください。(畑野)

「おすすめメニュー」

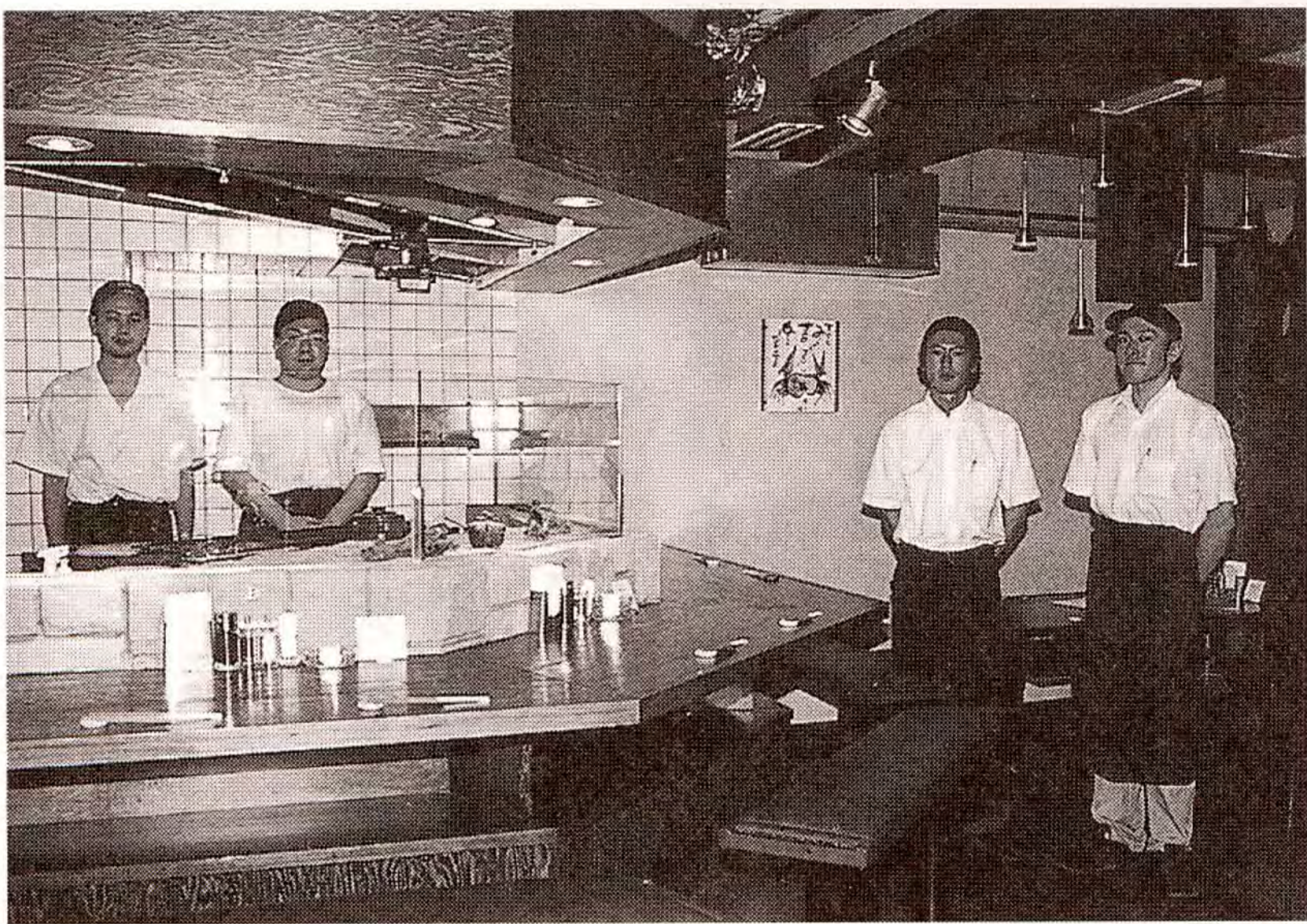
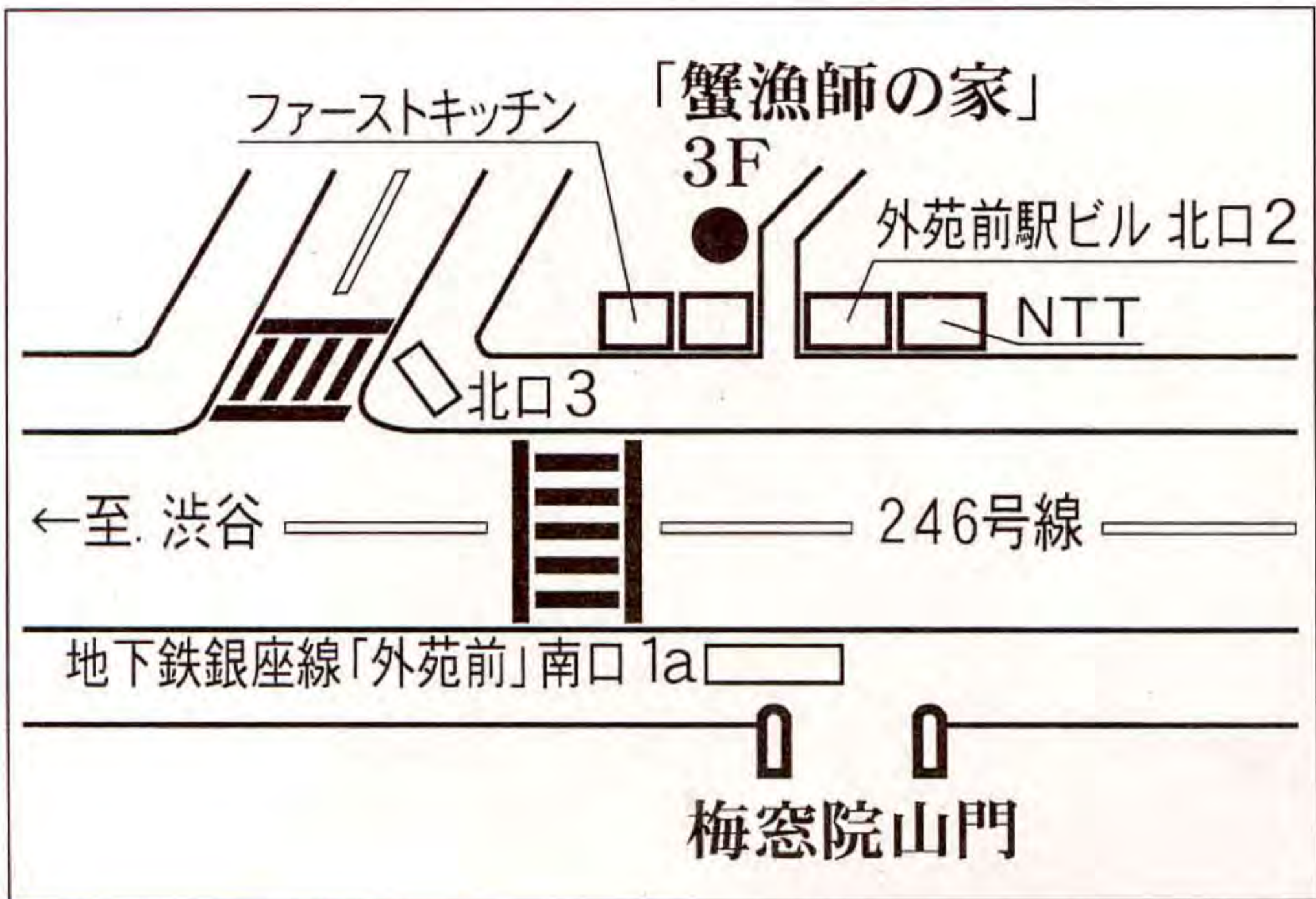
浜ゆでズワイ	九八〇円
浜ゆでタラバ	一三五〇円
炭焼きズワイ	一〇八〇円
蒸タラバ	一四五〇円
タラバ刺	一二五〇円

※右メニューはすべて二人前

明るいスタッフで、和やかな雰囲気

場所 青山スカイビル3F
TEL03-3470-0773
梅窓院より、246号線を渡り、ファーストキッチン右隣のビルを左折。左側2軒目のビル3F。徒歩2分。

営業時間
平日 11:30~14:30
17:30~24:00
土曜日11:30~22:00
日祝休み



お寺にお参りになられた時に寄ってみたいところ、入ってみたいお店などございましたら、お知らせ下さい。「青山散歩道」で紹介させていただきます。



念仏と法話の会
別時念仏会



連続法話「年中行事」全三回
講師 岩手教区花巻組
鳥谷寺住職吉水正教 上人
・四月二十八日(金)
・七月四日(火)
・十月三日(火)

年三回行われている「念仏と法話の会」も、今年で六年目を向かえました。

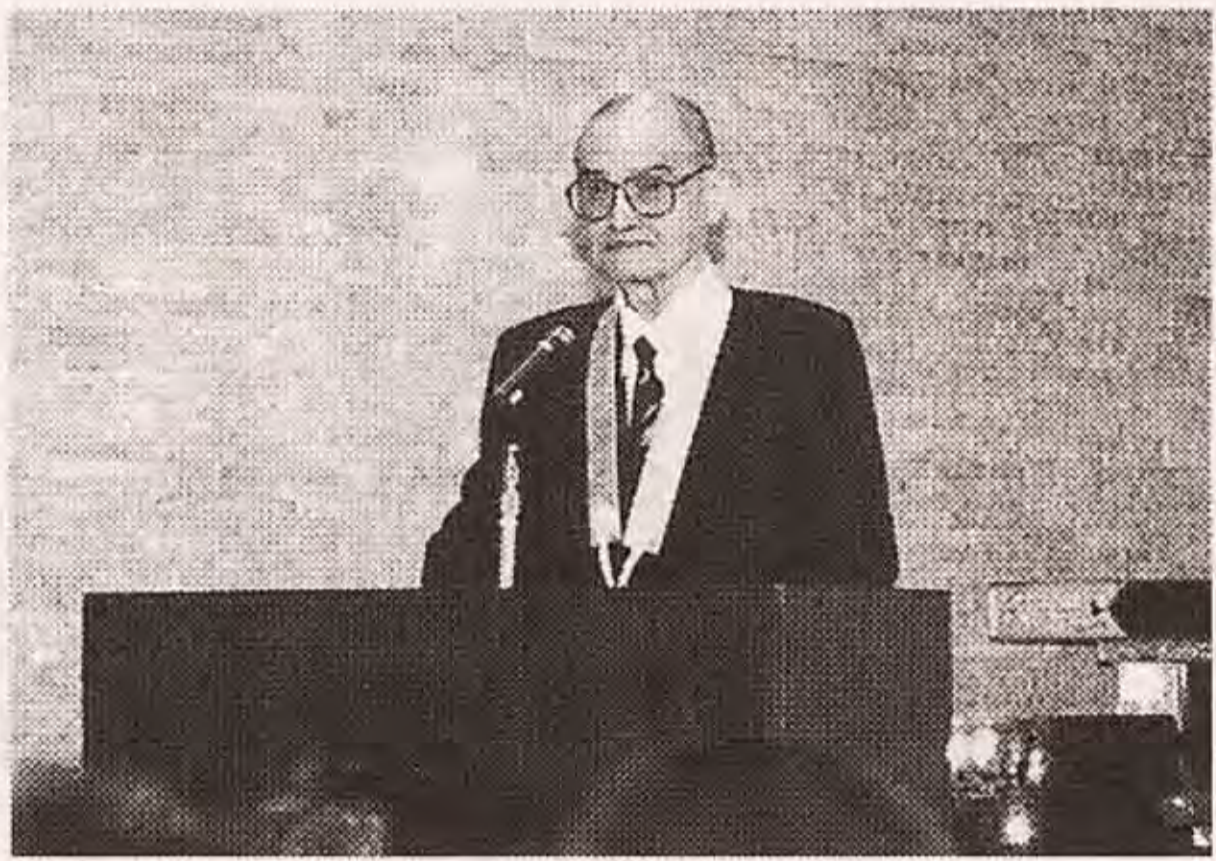
本年度は「年中行事」と題しまして、全三回の連続法話をお届けしております。四月には、修正会・御忌会・涅槃会・彼岸会・灌仏会について。七月には、お盆とお施餓鬼についてのお話を頂きました。

次回は、十月三日(火)を予定しております。皆様お誘い合わせの上、ご参加下さい。

(仏教研究所)

文化講演会

「死ぬまでは、生きている」
講師・作家 寺内大吉氏
五月二十七日 祖師堂にて



本年度より、文化活動の充実の一環として、著名人をお招きする「文化講演会」を開催する事となりました。

今回は、寺内大吉氏を講師に迎え、法然上人の説く「人

生の在り方」を、今の世相にあった切り口で、わかり易くお話しして頂きました。

終了後、「生き方を見直すきっかけになった」「元気が出た」等の感想も頂き、とても有意義な会となりました。(青山文化村)

薔薇とワインの会

六月十六日、祖師堂にて開催しました。この会は、青山浄苑に咲く薔薇が、満開となる良い季節を機に、お寺とお檀家の皆様とが、より親交を深められるようにと去年から企画されたものです。

昨年同様、今年もソムリエさんをお招きし、ワインの選び方についての講演をして頂きました。

講演後は薔薇が飾られ、ピアノ、ヴァイオリン、チェロのかなでるBGMの中、軽食サービスもあり、終始和やかな雰囲気です、お檀家様同士の親睦も深まったと好評でした。

(青山文化村)
ソムリエ さん



檀信徒の皆様へ

詠唱と仏教讃歌のつどい

六月二十九日、傳通院の本堂において、東京教区主催「詠唱と仏教讃歌のつどい」が行われ、全体で二八〇名の参加がありました。

私たちも、日頃のお稽古どおり、心のこもった詠唱を発表できました。このようなご縁を頂き、有り難く思います。講員の皆様、お疲れ様でした。(泉)

◇詠唱にご興味のある方は、泉・村松までご連絡下さい。

傳通院にて詠唱奉納する講員の皆様



◆車で来寺される方へのお願い◆

限られた境内で、少しでも多くの方が駐車出来るよう、右記の二点について、ご協力お願いします。

- ・石畳の参道以外のスペースに駐車して下さい。
- ・満車や二重駐車の場合は受付まで連絡して下さい。